

カーペット（繊維系床材）のメンテナンスレポート

クリーニング方式編 カーペットの洗浄クリーニングとメンテナンスポイント

各洗浄方式における事前バキュームについて



【作業工程】

- 1) 粗ゴミを回収する。
- 2) 作業エリアのパイルが潰れている方向を確認
- 3) アップライトバキュームで、洗浄するエリアをバキュームする。



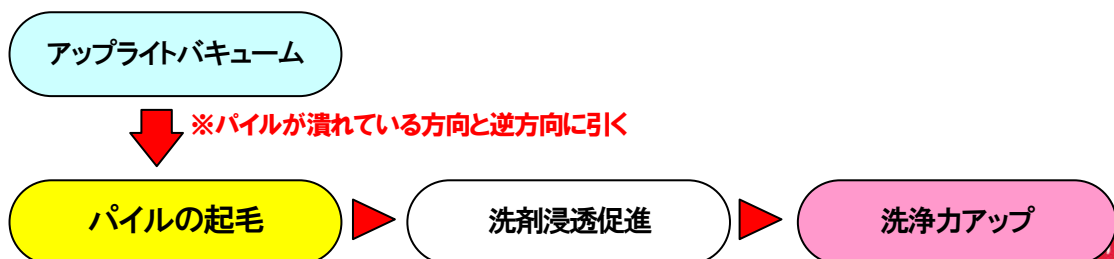
ウィックバックを防止する事、洗浄効果を向上させる事を目的に行う。
 洗剤を使用するクリーニング作業前にバキュームを行うもう一つの理由が、パイルを起毛させる事であるため、使用するバキュームは必ずアップライト型バキュームを使用する必要がある。

洗剤の浸透を早め、洗浄効果をUPさせるために、パイルを起毛する

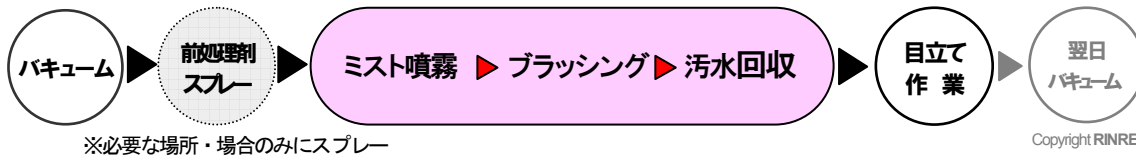
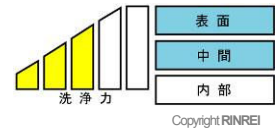
パイルが潰れたままの状態でも、表面的な汚れを除去するだけで、パイル内部の洗浄・除去は行えないので、洗浄前のパイル起毛は必須の作業になる。
 洗浄前に行うバキューム作業は、パイルの潰れた方向と逆の方向にバキュームを行う必要があるため、**洗浄前に実施するバキュームは、必ずアップライトバキュームを使用し、バキュームを行う前にパイルの潰れている方向を確認した上で、潰れている方向とは逆の方向に、ゆっくりとバキュームを引きながらバキュームを掛ける必要がある。**



アップライトバキュームを使用したバキューム作業の方向



ミスト方式



作業効率: 150 m²/1時間・1名
 使用洗剤: エコミストウォーター
 ※前処理剤はプレスプレー液
 使用機材: ・ミストマシン
 ・目立てブラシ、(スプレーヤー)

- [長所]
- 1行程でクリーニングが行なえる。
 - 作業者によるバラツキが少なく、作業品質を一定にすることができる。
 - 使用機材もわずかで、作業も簡単に行える。
 - 霧状の水を噴霧するため、水の使用量が少なく、短時間で乾燥する。
 - 水または専用洗剤で洗浄するため、再汚染することがない。
 - ロールブラシのため、パイル素材を傷めることが少なくできる。
 - ランニングコストを安く抑えることができる。

- [短所]
- 汚れが進行してからの作業では効果が期待できない。
 - 洗浄性にやや劣るため、全面クリーニングには不向きである。

(メンテナンスポイント)

獣道の目立ちやすい歩行動線を中心としたスポット作業が主体の日常管理型クリーニングに適した方式です。
 獣道の目立つ部分をバキュームし、ミストクリーニングを実施します。
 洗剤散布量が多いと乾燥時間に影響を及ぼしますので、**50mL / m²(10倍希釈液)**を目安に散布してください。

1パス目は洗剤散布を行いながら、2パス目は散布をせずに洗浄を行います。
 汚れが激しい場合には、ミストクリーニングを実施する前に、プレスプレー液を散布しておきます。
 洗浄作業終了後、**目立てブラシを用いてパイルの目立てを行っておく**ことで、乾燥を早める効果があります。

洗浄適性一覧	カットパイル		ループパイル		カット&ループ	
	毛足短い ペロア等	毛足長い サキノニー等	高低差あり H/Lループ等	レベルループ	ハイカット ロールループ	レベルカット レベルループ
アキスミンスター	○	●	/	/	●	○
ウルトン	○	●	/	/	●	○
タフテッド	○	●	●	○	●	○
タイルカーペット	○	●	●	○	●	○
コードカーペット	/	/	/	○	/	/
電着(人工芝など)	○	●	/	/	/	/
ニードルパンチ※	○ パイルの無いカーペット					

○:適している ●:適するが制約あり ▲:あまり適していない ×:適用不可